

平成 24 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501078		
法人名	医療法人光輪会大牟田セントラルクリニック		
事業所名	グループホームフェニックス苑		
所在地	福岡県大牟田市大字新町395		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果確定日	平成25年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームフェニックス苑は閑静な住宅地と前に公園があり緑に囲まれている。木造建築の家庭的な環境で入居者の方がこれまで暮らしてきた生活の場と同じように、その人らしく安心して過ごして頂く事を目標としてスタッフ一同取り組んでいる。運営母体が医療法人であり医療との連携で健康管理を行い入居者、又家族の方に安心して頂いている。季節毎の行事やホールにカラオケボックスの設置で毎日の生活を生き生きと過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時の理念に「尊厳」を加え、「笑顔・尊敬・尊厳・安全」の理念を実践するために、ミーティング時や定例会議で話し合いながら、入居者の穏やかな生活を支援している。地域住民として職員が美化清掃に参加し、火災等の緊急時は近隣の方々に避難した入居者の見守りをお願いする等の関係づくりをしている。そして、毎年地域行事の参加や見学を家族やボランティアと支援し、地域の方から声をかけられたり、スナップ写真を頂くなどの交流は、平成13年の開設から培った理解や協力の賜物である。法人代表の医師による健康管理や気遣いが理念の具現化となり、今年度も看取りを支援している。また、新任の介護支援専門員を中心にセンター方式を活用した介護計画を作成し、「家に帰りたい」と頻りに訴える入居者が落ち着いて生活している。2階のある住居改造型ホームであるが、昨今エレベーターが設置され、日頃の活用ばかりでなく緊急時の円滑な対応が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームフェニックス苑**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念→「笑顔・尊敬・尊厳・安全」 基本方針→「地域社会の一員として、生活し貢献することを掲げている。日々の業務で笑顔・尊敬・尊厳・安心を共有し実践している」	開設時の理念に「尊厳」を加え、尊厳を護るためにプライバシーの保護や言葉遣い等について、朝のミーティング時や定例会議で、話し合っている。全職員で笑顔・安全に配慮し、入居者の穏やかな生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館行事への参加、公園への散歩で地域とのつながり交流を図っている。 どんど焼き参加、大蛇山作り見物、大蛇山祭り見物と交流を図っている。	昔ながらの地域行事の多く残る土地柄で、毎年参加している。今年は風邪のため参加できなかったけど、去年は周りから暖かい声かけもみられ、後日、撮影した写真を持って訪問して下さる方もいた。自治会に加入していないが、職員が町内美化の清掃に参加し、近隣と顔なじみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館行事への参加では、参加を重ねる毎に地域の方より心温まる声かけをして頂き、グループホームへの理解が深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、当苑の現状報告と今後の課題を、各委員、御家族からの助言や意見を傾聴、運営に活かすよう取り組んでいる。	家族会と運営推進会議を同日に開催し、家族の参加を募っている。家族から市担当者へ介護保険制度に関する質問があったり、季節柄ノロウイルス研修に職員が参加したことを報告している。市に送付した会議録は公表され、ホームでは家族や来訪者の目につきやすい玄関に会議録を設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あんしん介護相談員との意見交換会、長寿社会推進課職員との交流で意見交換を行っている。今後は社会資源の窓口、連絡相談の窓口として連携を図って行きたい。	細分化した地域包括支援センターに母体法人から入居状況を報告したり、入居者の紹介を受けると、相談もしやすくなっている。市の情報ネットで研修案内等を検索するなど、情報収集に活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束について」の研修を行い何が拘束となるか正しく理解し、拘束のないケアを実践している。玄関の施錠をしない、又声かけ、言葉でも拘束にならない様に話し合いを行っている。	身体だけの拘束ではなく、「だめ」や「待って」の声かけが拘束になると理解している。以前は「家に帰りたい」と頻りに訴える入居者も、現在は落ち着いている。玄関は夜勤帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止について」の研修を行っている。日常のケアの中で無意識に虐待をしていないか又虐待の事例にあたらぬか全員で意見交換をして、適切な介護を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護全般に関して、外部や内部研修会で職員の意識向上に努めている。法人に関する弁護士が年に1回グループホームを訪問し家族の相談に対応できる体制がある。	法人での研修計画にも組み込まれ、研修内容は後日ホームで全職員で共有している。現在まで日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用者はいない。	今後多様なニーズが予測されることから、日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットの整備や研修で、内容やその違いの周知をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時に十分時間をかけて説明を行い利用者、家族等に理解、納得を得られるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望を引き出せる環境を作り、出された意見、要望をケアに取り入れている。又あんしん介護相談員の定期的な訪問を受け入居者の相談相手になって頂いている。	運営推進会議後、家族の意見を伺う時間を設けている。来所した家族に日頃の状況を報告したり、フェニックス苑だよりの配付やホーム内に行事のスナップ写真を掲示し、意見の表出を促している。排泄誘導やオムツの使い方を工夫し、オムツ代が安くなった入居者の家族から感謝の言葉があった。また、受診時に着せてほしい衣類などの要望を受け止め、詳細な申し送りをしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のカンファレンス、苑内勉強会、代表者と連絡ノートでの意見や提案をもとに皆で検討し、運営に反映させている。	朝のミーティングや定例会は、率直な意見交換ができる雰囲気である。職員の提案で、リネンの交換や入浴の日時を検討している。調査当日も管理者が昼食時、食後の入居者の様子に気を配りながら、和やかに職員の話聞く姿が見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。労働時間も法令遵守している。年に数回の食事会で交流を深める事と向上心を持ち働ける環境作りをしている。	代表者は各スタッフの努力や実績、勤務状況を把握している。労働時間も法令遵守している。年に数回の食事会で交流を深める事と向上心を持ち働ける環境作りをしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては資格者を優先しているが、年齢や性別などの規定はない。常に経験や実績等に配慮している。能力を發揮して生き生きと勤務できるよう配慮している。	ハローワーク等を活用し、2級ヘルパー取得を採用の条件としている。3ヶ月の試用期間後、常勤になる職員が多く、離職が少ない。今回介護福祉士の資格を取得した職員もあり、研修参加や資格取得の希望にはシフトを配慮している。1時間の昼休みを取っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「倫理及び法令厳守」の研修の実施で人権尊重と啓発活動をして人権尊重の意識付けをしている。	法人内の系列介護サービスの管理者等が講師を引き受け、内部研修を実施している。今年度は管理者や介護計画作成担当者が介護支援専門員更新研修で、人権研修を受講している。	理念の具現化に向けて、外部で受講した研修内容を活用した内部研修実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部外部の研修に参加している。 毎月伝達研修に取り組み研修内容が業務に活躍する様に職員全体の意識向上につとめる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	サービス事業者協議会、認知症ケア研究会に加入し研修の機会を通じて取り組みに心がける。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面談を行い、ご本人の話を傾聴、生活状況、状態の把握に努め不安混乱を緩和するよう心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会や面会、お便り等で御家族との交流を持つ事で生活状況を知って頂いている。 又家族の方の相談や要望に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みや相談を受けた時に現在のご本人とご家族の状況等をきき、何が心配か相談に乗り紹介する様にしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の困っている時や落ち着きの無いときは、ゆっくりと話を聞く様に心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便り、電話、面会を通じて日々の生活状態、状況を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人の面会は歓迎しています。又地域の祭り、散歩等、地域の方々の交流も喜ばれている。近所の公園にて毎年正月にどんど焼きに参加させていただいています。	家族や管理者の縁故者等がボランティアとして同行し、馴染みのある地域行事の参加や見学をしているので、地域の方の声かけがあったり、スナップ写真をいただいたこともある。調査当日、近所だったという方が来訪した入居者もあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル、ソファ等の位置、その時の心身の状況を把握し席を変えてみたり、又職員が間に入り利用者同士が助け合うように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も情報交換を行ったり、いつでも立ち寄り寄って頂ける様な環境を心がけ声かけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向を聞きながら、又現在の心身状況を把握し毎日の生活の中で変化があれば、その都度職員間で本人本位での対応が出来るように心がけている。	昨今、入職した介護支援専門員がセンター方式のシートを活用し、思いや意向の把握に努めている。入居者の発したユーモア溢れる言葉を管理者が書きとめ、その折の思いを共有している。担当制で衣類の入れ替えや、家族の対応を受け持ち、より細やかな支援や意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴、性格等や在宅時の生活の様子を把握し、苑での生活がスムーズに送られるよう対応し健康管理を行っていく。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況(体調面、精神面)の変化を早く察知し職員間の情報を共有してチームケアの充実を図っていく。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	苑での生活が本人らしく送れるよう、本人、家族の意向を聞きながら又、日々の状態を職員間で申し送りをして共有し、苑の状況を考慮し、チェック表を活用して介護計画を立てている。今後の検討課題としてセンター方式の取り扱いを考慮する必要がある	センター方式アセスメントシートを活用し、担当者会議で課題を話しあい、介護計画を作成している。「家に帰りたい」と頻回に訴えていた入居者が、3ヶ月で居間で過ごせるようになるなど、職員の気づきや声かけを活かしたケアが実践されている。	介護計画の見直し時の再アセスメントやモニタリングに、センター方式を活用しながら、各入居者の思いをさらに反映した介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子(健康面、精神面)を個人台帳に記録し、特記事項を申し送りノートに記載し必ず職員が目を通し確認していく。ケース会議や昼食時に職員間で情報を共有して処遇向上を図っていく。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で変化や意向等を考慮し家族との連携をはかりながら健康面(医療面)も考慮して処遇に当たっていく。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議(行政、地域、包括支援、民生委員、地域代表)各参加者からの意見等を参考にしてケアマネジメントに活かしていきたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の健康管理は看護師、かかりつけ医ドクターにより適切な医療を受けているし、毎日の往診がある。また家族、本人が望まれた時は看取り介護も実施している。	法人代表の医師が毎日来所し、体調を気遣っている。管理者が看護師でもあり、体調に変化のある場合は、すぐに法人代表の医師に連絡している。整形外科を受診する入居者もあり、家族とともに支援している。協力歯科医の往診で、義歯の不具合が良くなり喜ばれている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師でもある管理者やスタッフの看護師、クリニックの看護師と情報を共有して日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、その病院に利用者さんの容態等を随時聞き病状を把握し安心して退院できるように又退院後の受け入れ準備を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方については、契約者医療機関との連携の中で職員と対応について協議し、医療担当者の助言を求めて家族の希望を受け入れる方向である。	契約書や重要事項説明書に看取りについて明記し、意向確認書を整備している。今年度は、1名の看取りを支援しているが、医療機関への救急搬送もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1人1人の健康チェックを日頃、バイタル表で行っている。利用者の体調に変化があった場合はかかりつけの医師に報告、その後指示をあおぐ。 周囲の職員にも申し送る。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員が避難経路を把握し、誘導できるように訓練している。外部(地域公民館、消防団、民生委員)に一秒でも早く知らせる協力体制を築き火災通報を行う。年2回火災訓練を実施している。	夜間を想定した避難訓練も実施しているが、既存の住居を改造しているため、2階の入居者の移送が課題となっている。民生委員や近隣宅に緊急時の協力をお願いしているが、特に近隣の方々には避難した入居者の見守りをお願いしている。	地域の理解や協力をお願いするために、運営推進会議の日程に合わせて、避難訓練を実施されてはどうか。課題の共有や打開策等のアイデアを期待します。また、個々の入居者に応じた防災グッズの整備もお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格尊重を重視しプライバシーを守る。利用者の言葉かけには人格を損ねない様子を気をつけている。利用者個人の性格と習慣を把握する。今後も続けていく。	トイレ時のカーテン、言葉かけ等に配慮し、管理者が気づきをミーティング等で話している。安心介護相談員の来所では小声でのトイレ誘導が賞賛されている。理念に尊厳を加えたことで、職員によりいっそうの心がけを促している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の話に耳を傾け希望、意向に近づける様に心かける。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、散歩、買い物、個別活動など利用者の体調・気分に合わせて応じた支援に取り組んでいる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に来て頂き本人の希望を聞き散髪して頂く。洋服を選んでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で作ったものを利用している。無理のない範囲で準備片付けは声かけをする。利用者全員が同じホール内で食事するようにしている。介助の人は誤嚥のない様に注意しながら楽しく食事をして頂く。	食事は法人の厨房で作っているが、おやつを手作りしたり、ビール・ワイン・お酒等を少々晩酌として楽しんでいる。沢庵が食べたいとの希望で細かくしてストックしたり、毎日来所する法人代表の医師が、入居者の希望の応じてパン類やさしみ、野菜を持参し、入居者に喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事摂取量は毎日記録する。 自分で摂取できない入居者は介助する。 一人ひとりの状態に合わせてキザミ食やミキサー食にして栄養摂取と水分確保をする。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は、スタッフが磨き消毒する。 自分の歯の方は付添いして自分で磨かれる。 又最後は緑茶での口すすぎを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗のないよう定期的に声をかけ誘導する。 車いすの方でもポータブルトイレに定期的に座ってもらいポータブルでの排尿を習慣づける。	トイレ誘導やオムツの使い方を工夫し、オムツ代が格段安くなった入居者もいる。日中はトイレで、夜間はベット脇に設置したポータブルトイレを活用している。医療機関からの指示や疾患で排尿量のチェックが必要な場合は、個別介護記録に記載している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の回数、量を全員記録する。 3日目になっても排便がない場合には医師または看護師の指示を仰ぐ。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ本人の希望を尊重し、また体調に応じて入浴施行している。 また、月に一度は花の里デイサービスの大浴場へ送迎して頂き入浴施行している。	埋め込み式の家風呂のため、またぎや出入りに配慮しながら、週2～3回の入浴を支援している。入浴を拒む入居者もいるが、日時や対応を変えた支援で入浴している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調等を考え、また季節に応じて寝具やエアコン等使用して、室温を保ち快適に休息、安眠して頂くよう心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日付、名前を声に出して確認し飲み込みまで見守りし確実に飲んで頂く。 また副作用等の症状が出た場合、直ちに医師、看護師に報告する。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は戸外に出て公園等の散歩や季節の花々等の見物をして頂く。 また洗濯物たたみやタオル等を干して手伝って頂く。誕生日にはケーキを食べビールやワインで乾杯もあり喜ばれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	神社や公園へスタッフ、家族の方と一緒に散歩に出かけたり、ドライブでお花見見学に出かける。又、外庭で日光浴を行っている。家族の方と一緒に外出されたり、地域の人々の協力を得て、地域の行事や祭りなど家族に声かけ一緒に参加して頂く様取り組みたい	法人系列のデイサービスに毎月入浴に外出したり、誕生会等の行事に参加している。梅、桜、向日葵、菊など季節の花見に出かけたり、恒例の地域行事には家族やボランティアの協力で参加や見学に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者本人がお金を持っていらっしゃる方はいても、持つ事で安心されている。施設で管理を行う。又必要に応じて家族の方が持参される。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等に電話の希望された時又不穏時は、電話の取次ぎを行い会話中の見守り、ご家族に近況をお話する。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季ごとに飾り付け、お花などを飾る事で四季を感じてもらっている。清潔、整頓に心がけている。ホールにてゆったり、出来るスペースにして頂いている。	民家をそのまま活用した玄関で、郵便受けがあったり、上がり口は踏み台を設置している。厨房と居間の間に設置されたアコーディオンカーテンを、時間や用途に応じて随時開閉している。居間は中央にテーブルや椅子、窓際にソファが置かれ、壁に手すりが設置されている。加湿器を設置し、空調を管理している。日中は居間で過ごし、カラオケのマイクを離さない入居者や壁側に家族写真を飾って自分専用のコーナーとしている入居者もいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、椅子で各自好きな場所でゆったり、くつろいでいらっしゃる。テレビ、カラオケを楽しまれる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた馴染みな物・写真など置かれている。又各部屋にはテレビが置かれていて見られるようにしている。	2階のある住居改造型ホームに、昨今エレベーターが設置され、2階の居室と共用空間の行き来が円滑になっている。各居室はベッドやタンス、日常用品が置かれている。家具型ポータブルトイレが設置され、防臭に配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所ごとに目印、名札をつけわかるようにしている。出来る事は見守り、誘導している。		